

## 知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【開催日時】平成24年10月1日（月）

10時15分～12時15分

【会 場】富士市交流プラザ

### 1 出席者

- ・ 発言者 富士市において様々な分野で活躍されている方6名（男性2名、女性4名）
- ・ 傍聴者 119人

### 2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	新規就農者の推進 地域に密着した支援施設の増設	3
2	工業用水利用料の値下げ 製紙産業への支援	4
3	学生の市民活動に対する支援制度の創設 岳南鉄道のPR	10
4	互いに顔と名前を覚える付き合いが大切 各地域ごとの子育てサークルの開設	12
5	中学校の相撲部設置の要望 新東名高速道路ハイウェイオアシス構想の実現	17
6	医科大学誘致の要望 町内会連合会の取組	18
傍聴者 1	新新富士川橋架設事業の進捗状況	27
2	富士山静岡空港の経営状況	27
3	若者が集う場所の設置	28
4	岳南鉄道の存続活動に対する応援	28

<知事挨拶>

皆様、おはようございます。

今日は台風一過、まことにさわやかな秋晴れのもとに富士山がすばらしい。また雪をかぶっていらっしゃいません。その分、大変たくましいお姿を見せてくださいます、そうした中でこの知事広聴、今日はこの地域のリーダーでいらっしゃいます5人の先生方に御出席いただきまして、何といたしても今日は月曜日、ウィークデーでそれぞれのお仕事のある時間にこういう形の広聴会を持ったわけでございますけれども、今日100名を超す方々が出かけていただきまして、誠にありがとうございます。

この知事広聴というのは、今年度に入りまして5回目になります。通算ですと、もう22回目を数えているわけでございます。これは広報という、県が何をやっているかということと県民の皆様方にお知らせするというその広報に対して「広く聴く」ということなので、今日はこの地域の6名の方々のお話をじっくり、また会場からも最後の方で御発言いただいて、それをじっくり聞かせていただきまして、それを県政に活かしていくという、そういうためのものでございます。

知事広聴わずか22回というふうに思われるかもしれませんが、一方で私はこちらにも何度もお邪魔をさせていただいておりますし、いわゆる公務で県下に出かける回数、もうおそらく1000回を超えているのではないかとこのように思っております。そうした中で、しかし行ってすぐ帰るということではなくて、移動知事室というのも設けまして、これは静岡市の葵区に知事室がございまして、そこから外に移しまして、そしてそれを移動知事室と名付けるということで、その最初の移動知事室をしたのがこの富士市でございます。今年の1月でございました。そのときに岳南鉄道にも乗りました。また日本製紙の鈴川工場の中を見せていただきました。田子の浦港にも参りました。ただ残念ながら皆様方とごゆっくりお話をする時間がないままでございました。

ただ、今日は親しい方もいらっしゃいまして、例えばヘリコプターをどうするかというようなことは大問題ですね。東日本大震災でヘリコプターが大変大きな活躍をしました。こちらにはヘリコプター協会というのは、もう昭和の末からございまして、しかし基地がまだないということで、そういうお話をヘリコプター協会の顧問さんからも聞きましたが、その顧問先生も来られていて、大変うれしく思っております。

そうした形でこちらの方にもお邪魔しております、今日はじっくりとお話を承りまして、遠慮会釈なく、もう思いきり腹藏なくおっしゃっていただき、そしてそれが結果的

に公益に資するということでございますので、そうしたことを私、勉強させていただきまして、この2時間、お昼の12時15分ぐらいまでが予定されておりますけれども、充実した時間になりますように御協力賜りまして御挨拶といたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

< 発言者1 >

皆さんこんにちは。私は富士市大淵というところで、農業を展開しております。

私が農業の世界に入ったのは実は4年前でして、自分の両親が急に亡くなってしまいましたので、その跡を継ぐ形で新規就農いたしました。新規就農しまして、実際に農業の現場に立ってみると、農業自体ちょっと難しい業種ですけれども、いろいろな問題を目にするがありまして、今日は2つほどお話ししたいと思うのですけれども、一方で農業の世界というのは高齢化、担い手不足が進んでおりまして、どうしようというのが、これは富士市だけではなくて日本全国各地でこういった問題が起きています。

もう一方で若い世代の人たちが農業をやってみたい、新規就農してみたいという声が大変多くなっております。私も新しく農業の世界に入りましたので、そういった方々にぜひ門戸を開いていきたいと思ひまして、研修生などの受け入れを積極的にやっているのですけれども、その中で新規就農したい、農業をやってみたいという方、非農家の方が多いのです。自分は農家の娘、息子でもないという方たちですね。

なので、農業に対する意欲というのはあっても、なかなか農業者になれないというちょっと難しい問題がありまして、でも先ほど言ったように、一方では担い手不足、高齢化が進んでおりまして、この農地どうしよう、もうやっていけない、もしくは自分が農家なのに、娘、息子には「大変だから継がなくていいよ」「いい大学に行って、いい会社に入ってよ」、そんなような会話が実際なされています。

でもそれを一概にいいとか悪いとかではなくて、担い手不足、高齢化が進んでいる地域で新規就農を考えている方たちがうまく入り込んでいけるような、そんな仕組みづくりが今後執り行われるようになれば、農業の世界は守られていくのではないかと、また新しい農業みたいなものが発展していくのではないかとというふうに考えております。

運よく農地を借りて、農家資格を手にして、農業をやろうというふうに、その新規就農の方たちがなったときも、今度はビジネスとしてのノウハウというのも同時に必要になります。私自身4年間、何とかやってこられているのは、富士市はすごくラッキーなことに、

富士市産業支援センターf-Biz という公的機関でビジネスをサポートしてくれる機関がございます。中央図書館の別館になります。

ここで私がいろんな農業のノウハウ、ノウハウというかビジネスに関することを勉強して、今も一緒に問題解決に向けて取り組みを行っているのですが、県の方にもいろんな農業に対する施策、助成、支援みたいなものがあるのですが、ケース・バイ・ケースで割とその土地土地、またその農家さん、作っている作物によって、かなり複雑な問題がたくさん出てきますので、そういったところを一緒に考えて、一緒に行動して、一緒に問題解決して、しかもいい結果の方に結びつけていく、こういう支援というのは絶対に不可欠だと思っております。国ベースで報告して、ヒアリングして、問題提起したとしても、そこで終わってしまうことが大変多いので、そうではなくて実際に動きの方にあらわれるような、そんな支援を望んでおります。

できれば f-Biz のような地域に密着して、そのケース・バイ・ケースの個々の問題を解決していただけるような支援機関が各市町に増えていくと、地元の産業、農業のみならず、いろんな産業が地域活性みたいな形で活発化して、発展していくのではないかと考えております。これが各地に増えていくというと、最終的には県全体の地域産業の発展につながっていくと思いますので、ぜひこういった取り組みが盛んになっていったらいいのではないかなというふうに、実際やっていると、思っています。私自身ももっと頑張って、地元地域の産業に少しでも貢献できたらと思っております。以上です。

<発言者2>

皆さん、こんにちは。私は企業の経営者としてもいろいろやっているのですが、それ以外の場でもさまざまなことで市の皆様には大変お世話になっておりますので、改めてお礼申し上げたいというふうに思います。

今日は企業の立場で物を申せということですので、いろいろ考えてあるのですが、やはりこの製紙産業が特に富士市に多くて、県下を見ても、三島に行けば特種東海の本社があったりとか、島田の方に行けば東海パルプがあったり、安倍川製紙があったり、巴川製紙、静岡県下を見てもさまざまな製紙会社が紙を作っておるわけですが、その中でも特にこの富士市には日本製紙さんとか、王子製紙さんという大手製紙会社も多くある。我々のような中小企業もたくさんありまして、以前は富士市というのは全国で製紙関連の出荷額が日本一だったのですが、今は四国中央市に抜かれ2位、そしてまたここへ来

て、大手の製紙会社さんからもうわさが出ているのですけれども、この富士の地域から撤退をするというふうなことで、何となく寂しい秋風が吹くような業種になってきました。

なぜだろうかというふうなことを我々も考えるのですが、大手さんの場合は全国に工場がありますから、富士市はなかなか立地条件の問題、コストの問題を考えても、決して有利に製紙業を営むことは難しいということで、他の地区に、例えばこの間大きな地震があった石巻ですか、あちらの方にある程度集約をするとか、他の地区に集約をするということで、この富士の地の製造ラインを止めても、そういったことができるのですが、我々のような中小の場合は、特に私どもの会社の場合は東部地区には11工場を構えておりまして、この地域以外には工場がないわけですから、ここにしっかりと根を張って、本当にここから物をつくり、そして全国に発送しております。

やはりぜひお願いをしたいということは、製紙というとは何となく昔から、先ほどこの会の前に知事さんからお話がありましたけれども、「田子の浦港きれいになったね」なんていうお話がありましたけれども、本当にこの田子の浦港と我々製紙会社は本当に賢明な努力をしてここまで来たのです。以前はヘドロ問題で全国に悪名が高くなった時代もあったのですが、我々企業は県のサポートを一生懸命受けて、県と一体となってこの田子の浦港の浄化というのですかね、そんなことに努めてまいりまして現在に至っております。恐らく50年ぐらいかかっているのではないですかね、そういった歴史があるわけでございます。

さて、企業として今後のことを考えた場合、やはりインフラというのは確かに富士市は大変整っております。岳南排水路だとか、それから工業用水だとか、確かにインフラは整っておって製紙業を営むにはいいのですけれども、その営むがためのコストが大変高いわけですね。先だっても若干工業用水の見直しのお話が出まして、確かにちょっと見直しはされたのですが、最終的に支払う金額は全く変わってないというようなことで、製紙会社からはいろんなコメントが出ております。

その一方で排水については岳南排水路という富士独特の排水管路があるのですが、これについてはこの11月から、富士市の方で20%3年間の猶予ということで、企業に協力しようということで20%の削減をいただいて、我々としても若干余裕ができたわけでございます。そういったものを持つ行政として、企業を後押しするようなサポートをぜひお願いしたいというようなことが一つあります。

また東部地区には製紙産業を初め自動車関連、さまざまなものがあるのですけれども、例えば自動車関連ですと、海外に出るだとか、いろいろ話が出ておりますし、我々製紙と

というのは大変すそ野が広いのです。物をつくって、これを運ぶという物流、例えば私どもの会社はせいぜい売り上げも年間 200 億円前後の会社ですけれども、その売り上げの約 3% がこの静岡県で消費される私どもの商品です。残りの 97% というのは全国、北海道から九州まで物流網を通過して、トラックを使って運んでいきます。

ですから、この製紙というのは物流関係も含め、また資材ですね、段ボールだとかポリ袋だとか、また薬品だとか、機械も含めてすそ野の広い産業ですから、ぜひこれを後押しいただきたいなというふうに思うことと、私が感じていることは、最近東部地区はファルマバレーというようなことで、いろいろもてはやされていますけれども、医療分野だとか、そういったものは確かに、県民受けはとて素晴らしいと思います。

でも、やはりこの県民受けのいいものに向くのではなくて、やはり地場の産業をどうつくっていくのか、またどう育成していくのか。企業としても一生懸命生き残ろうとして今努力をしておりますので、そういったことの後押しをぜひお願いしたいということと、それと最後になりましたが、昨年原発の大きな問題で、東電の電力不足で私どもの会社でも約 17~8% の値上げになっております。200 億円そこそこの会社で、電力コストのアップだけで年間 2 億 5000 万円です。製造業、特に製紙関係というのはものすごく電力を使います。この 2 億数千万円というコストアップを商品転嫁できるかということ、なかなかできない。ですからこんなことも含めて、我々が製造業として今直面しているさまざまな問題がありますので、適切な指導をぜひお願いしたい。

適切な指導というのは、例えば公害問題、廃棄物云々なんていうことになると、すぐ県に許可をもらいに行かなきゃならないですね、環境アセスの問題。何年もかかる。その許可がものすごい時間がかかる。そんなことで、我々ときどき足を引っ張られるようなこともありますので、そんなこともぜひ見直しをしていただきたいなと思います。よろしくお願いします。以上です。

<発言者 1、発言者 2 に対する知事のコメント>

それぞれ今、発言者 1 さんと発言者 2 さんから、一人は農業、一人は工業ということで、若いリーダーとベテランのお話を承りまして、特に農業の方は日本全体で後継者不足という問題がございます。それから遊休地の増加というのがございます。最近では TPP の問題がございまして、大変重要なトピックで、この発言者 1 さんの場合、残念ながら御両親が他界されたということとございましたが、御両親が大事にされていた農業を自ら継ごう

ということで帰ってきていただきまして、本当にありがとうございます。ですから恐らく非農業の仕事をされていたのですか。（「そうです」）

ですから非農業の方が農業をやりたいという人が自分のようにあるはずだと。自分がそうであった。そうしますと、どうしても知識とか、技術とか、あるいは使うべき土地だとか、基本的に問題になることがあるので、そこのところをサポートできなければ、やりたい人が仕事ができないという、これはもう非常に説得力のある議論だったというふうに思います。

ですから富士市の場合には図書館の別館ですか、そういうところにサポートシステムがあったということが幸いしたと思いますけれども、わずか4年の間に素晴らしい御活躍をされていると。もちろんこれは御両親の作られた基礎の上というふうに思いますけれども、しかし農業以外のところで仕事をされてきた発言者1さんのいろいろなセンスがここに生かされているに違いないということで、こういう人を増やさないといけないというふうに思います。

そして農業はこの間の東日本大震災で食の問題、それ以前から食育の問題がございましたけれども、食の安全、我々も茶の風評被害で苦しみました。食の安全についての意識が非常に高まっています。そうした中で改めて静岡県を見直してみれば、これが「食材の王国」であったと。つまり食材数が日本一多いと。しかもどの食材をとっても、もちろんこれはお茶であるとか、あるいは発言者1さんが作っていらっしゃるブルーベリーもそうですけれども、あるいは海の幸である、こちらでいうとシラスであるとか、どれをとっても、もう静岡県の名産、ブランドとして確立したり、しつつあるものがあるわけです。ですから「食材の王国」になっていると。

そして、追い風としては新東名高速道路が162キロ一挙開通しまして、そこに1カ月で593万人がSAとPAに来ていると。あのスカイツリーは581万人ですから、1カ月で、それより12万人も多いと。だから富士市の人口の2分の1ぐらい多いわけですね。それぐらいの人たちがうちに来ていると。SAとPAに何しに来ているかというと、食材を求めに来られているということがはっきりしている。3カ月で1300万人、今1800万人を超えています。

ですから、実はこちらに買いに来られればいいという、そういうインフラができて、そういう店もできている。恐らく富士川楽座なんかも御改装されているのではないかと思いますけれども、あそこも眺めがいい、かつ、おいしいものが食べられたり、買うことがで

きるということで、今静岡県にそういう食についての追い風が吹いていると思います。ですから今制度的にいろいろとバリアがあるといいますか、障壁がありますが、私は「食材の王国」を「食の都」にしていくというふうに決意しております。そして「食の都」になり得ると。東京は食料自給率1%ですから。こちらは食材がすべてあるので健康寿命が1位になっているわけです、日本で。ようやくそうしたことについての世間の目が向いてきたということで、その風を上手に自分の中に取り込む工夫が要るので、行政とあるいは農家、あるいは農協、すべてが協力をして、若い人たちを励ますというそういう文化をつかっていきたいというふうに思っております。

発言者1さんには、とりあえず必要なことを言っていただきまして、これを原則として知識、技術、そういう土地ですね、こうしたことを新しくやりたい人に、非農業をやっている人たちから参入しやすい環境をつくっていかうというふうにしたいと思います。

そして発言者2さん、これはこの富士というのは、富士の伏流水というか地下水、あるいは豊かな水を利用することを通して紙の産業を育んできた。したがってここは「紙の都」ですので、その紙は神様に通じるというふうに思います。だから紙の文化、これは結局、紙というのは文字を書いたり、絵を描いたりいたしますので、これは文字どおり文化の基礎なわけですから、「紙の都」であるということは文化都市であるということで、ここが今苦境に立っていると。かといって、例えば日本製紙が今回大津波で無茶苦茶にされた石巻で集約するということは、同じ日本人として石巻の人たちにとってはいいかもしれない。

だけど、こちらにとっては、私も日本製紙の工場を見に行きましたけれども、大きなラインが4本並んでいまして、そのうちの1本は別の用途で、3本のうち2本が働いていませんで、「どうするんですか、いずれ動かすんですか」と言ったら、「いや、これはもう買い手がいたらアジアに売る」とおっしゃっている。「この残りの1本はどうですか」「これも風前の灯だ」と所長がおっしゃって、ですからこれ1月のことです。

それで土地を見てみたら、奥行きが500メートルほどありますし、直線距離で2キロ弱ぐらいありまして、31ヘクタール。高校が4ヘクタールぐらいですから、高校8つ分です。

これは線路のすぐそばにあるということですので、使い道もあるかなというふうに思いますが、ともあれ行政がこういう大手だけでなくて中小の、中小といっても発言者2さんの会社は立派なものでございまして、トイレットペーパーは最高ですよ。これの需要はなくならないと思います、日々使いますから。そういうところにちゃんとターゲットを当て



ている。しかもこれを牛乳パックでなさっておられるでしょう。

この間、いつでしたかね、経営者協会の事例発表の中ですばらしい発表を発言者2さん御自身がなさっていただきまして、皆聞いても、ほかの会社の社長さんも含めて、非常に感じ入ったわけでございますが、そういう仕事をされているだけでなく、会社の工場を子供たちに勉強のために見せるということもされているわけです。

ですからここに、先ほどあったように、県が足を引っ張っていると。いろんな規制、もう環境アセスだ何とかと、しょっちゅう何か言っている。これは恥ずかしい極みです。だからこの次お目にかかったときには、大分スピードが速くなったとか、あるいは「もうまた県庁か」でなくて、「おっ、今度は県庁に入っていったらすぐ済む」というふうになるように、トップクラスがここで聞いてますから、今聞いて、県庁でたらい回しにされて、そして規則、規則、規則で杓子定規で足を引っ張っているというのは、もうこれはサービス産業としての一番の基本にもとる行為だということでございますので、こういうもの、こういう文化をなくしていきたい。紙の文化を支えるために我々は存在しているんだということで、地場の産業を支えるということが一番の基本だと。

大手はなるほどございますけれども、本県に20万ぐらいの事業所があります。そのうちの99%は中小です。ですから本県の経済が成り立っているのは、大規模産業はもちろん重要ですけども、人といえ、あるいは数といえ、家族といえ、結局中小の事業所ですから、それを励まさないといけないと。これをまず今日は発言者2さんに対するお答えとして地場産業を励ます、それから足を引っ張らない。

それから工業用水について、少し改善をしたということでおほめの言葉をいただきましたけれども、まだ不十分だと。二段階方式にして、企業局の方で工夫をしたみたいですが、まだ不十分だというふうに今聞きまして、今日は企業局の者が来ておりません。企業局というのは水道を管理して、私どもから一部独立している組織でございますが、ここにきっちり伝えまして、まだ不十分だと。何点ぐらいですか、点数で言うと。

<発言者2>

いやまだまだ全然だめですね。もう点数だと30点。

<知事>

30点ですか、そういうことですので、ともかく60点ぐらいになるまでにしたいと思いますので、30点を2倍にしたいと思います。どうもありがとうございました。大変厳しい御指摘ありがとうございました。

< 発言者 3 >

皆さん、こんにちは。

今日会場にいらしている知事と皆さんは岳南鉄道を御存じだと思いますが、簡単に岳南鉄道の紹介をしたいと思います。岳南鉄道とは、静岡県富士市の東部、吉原から岳南江尾までの9.2キロを結ぶ鉄道です。東京タワーと同じ色のオレンジ色の電車と、緑の「がくちゃんかぐや姫号」が走っています。富士山が見えるポイントや工場の中を走ったり、レトロ感のある駅舎など、ほかの鉄道にはないロケーションがあり、ドラマや映画のロケ地としても使われています。岳南鉄道沿線に住んでいる私たちは、小さいころから岳南鉄道を利用しています。鉄道の乗り方を覚えたのも、幼稚園時代に乘った岳南鉄道でした。小学校、中学校、高校、大学と、学生の私たちにとってはかけがえのないものです。

その岳南鉄道が存続の危機にあることを昨年、高校3年生の12月初めごろ新聞を通じて知りました。岳南鉄道が廃線になってしまうと、私たち学生の通学する手段がなくなってしまいます。会社の通勤にも影響が出てしまい、しかも車を運転できない高齢者の方や障害のある方の外出が不便になります。利用している私たちやファンの人たちにも親しまれている岳南鉄道がこれからも必要と考え、存続活動を思い立ちました。

友達に声をかけたところ、一緒にやる仲間が集まり、SAVE! 岳鉄レンジャーを結成することができました。レンジャーの団体名の意味は、「SAVE!」が「救おう」、「レンジャー」は結成したときの人数が5人だったので、「戦隊ヒーロー」で使われている「レンジャー」にちなみ「岳鉄レンジャー」になりました。現在はメンバーが増え、小学生から大学生までの学生12人となりました。一人一人レンジャーのカラーが決まっていて、Tシャツが自分の色になっています。ちなみに私は赤です。

これまでの活動では第1弾として、1月からブログ、ツイッター、フェイスブック、ホームページなどで情報を発信し始めました。第2弾では1年半ばかり存続を求める署名活動を行いました。2000人を目標とし、知り合いや小中学校時代の友達などに声をかけていきました。自分たちでいろんなところへお願いしに行ったり、岳鉄に乗り1日かけ岳南江尾駅から吉原駅まで1駅ずつ署名活動をしました。

当日は雨が降っていて寒い日でしたが、各駅に地元の方はもちろん、署名のために大阪や新潟などからも岳鉄ファンの方たちが駆けつけて協力してくださったり、差し入れをくださったり、温かい言葉をくださったりしました。応援してくださった皆さんのおかげで、その日は420人分の署名を集めることができました。

2月9日の最終日には目標をはるかに超える合計 8145 人分の署名が集まり、2月10日に富士市長と富士市議会議長に署名を添え、岳南鉄道の存続に向けた要望書を提出しました。その日は岳鉄機関車祭り、岳鉄ビアガーデンの出店、小学校の総合学習の協力、富士市まちの駅ネットワーク主催の岳鉄コロコクイズラリーのマップ作成、富士市都市計画課主催の岳鉄ワークショップへの参加などに取り組んでいます。今後は岳鉄弁当の開発やハロウィンのイベントを企画しています。

岳南鉄道では今までイベントなどが余り行われていなかったもので、これからは岳南鉄道と協力して、鉄道ファンの人や、県外の人や、富士市の皆さんが楽しめるイベントを行いたいです。多くの人に注目され、公共交通としてはもちろん、富士市の観光資源と言ってもらえるように、みんなで意見を出し合いながら、岳南鉄道をこれまで以上に盛り上げ、たくさんの人に利用してもらいたいです。そして岳南鉄道の駅から巡回バスなどに絡めて、交通網の連携など、利便性を向上させる策をもっと考えて提案したいです。

1月からの岳鉄レンジャーの活動を通して、学生が市民活動をしているということで、たくさんの方がアドバイスや意見をくださいました。皆さんからいただいた意見をこれからの活動につなげていきたいです。これからは市民活動を通じて行政にアイデアを提案していくことは大切だと思います。富士市がよくなるために、行政や議員にお任せではなくて、自分たちから動いていきたいです。

最後に、今日は私の19歳の誕生日なので、川勝知事に2つ、皆さんに1つお願いしたいことがあります。1つ目ですが、富士市には市民活動補助金がありますが、補助率が2分の1で、資金を半分自分たちで用意しなければならず、学生だけで活動している私たちにとって、この制度を利用するのは難しいです。これから学生による市民活動も増えていくと思うので、ぜひ知事に学生の市民活動に対する支援制度を創設していただきたいです。

2つ目は岳南鉄道のPRを県にもお願いしたいと思います。世界文化遺産になるであろう富士山のおひざ元にある富士市には、今後たくさんの人たちが訪れると思います。そこで天竜浜名湖鉄道や大井川鉄道のように、岳南鉄道のことを広く知っていただきたいです。

3つ目に市民の皆さん、まず岳鉄に乗ってみてください。旧富士市エリアや旧鷹岡地区、旧富士川地区の皆さんにとって岳南鉄道はなじみのないものかもしれませんが、ぜひ一度乗車してもらい、岳鉄のよさや必要性を理解してもらいたいです。晴れて富士山がきれいに見えるときがお勧めです。これからも学生の立場でできる提案をしていこうと思います。ぜひ応援よろしくをお願いします。

< 発言者 4 >

皆さん、こんにちは。私はNPO法人富士市子育てサークルネットワークふじママネットの代表を務めております。私は愛媛県の方から嫁いでまいりました。現在は男の子3人の子育てをしております。

私たちふじママネットの活動ですけれども、平成13年6月より活動を開始しております、主に地域で活動をする民間団体や子育てサークルというものの集まりの名前が「ふじママネット」と申します。子育てサークルって皆さんのお耳にはなかなか馴染みがないかもしれませんが、幼稚園や保育園に入園する前のお母さんと子どもが集まる、集う民間団体です。それは自主サークルなので、だれからの支援もございません。支援者がいて、その場で何か体験できるということは、行政でいう子育て支援センターだったり、児童館だったりという場所になります。

私たち子育てサークルネットワークは、一つの子育てサークルではできないイベント等を、情報交換やお互いの悩み相談ということで平成13年から始めております。なかなか子育てサークルも、お母さん、子育てをしながらの運営になりますので、育児の合間を縫って皆さんと連絡をとったり、とても大変な活動になっております。平成13年当時は17サークルもあった富士市ですけれども、現在は、6団体に減ってしまいました。

それはお母さんも働くという流れになってしまったということと、あと子育て支援センターなど、公共で提供してくださる場に行けば、子どもと一緒に遊べるというとてもいい面と悪い面とがございまして、それはなぜかといいますと、地域で子育てをしてほしいのです。多分行政の方も皆さんそうだと思うのですけれども、子育て自体は地域で子育てをしてほしいんですが、なかなか人がいない、皆さん働いているということで、多分そういったところにはなかなか目を向けていただけないことが多いのです。

でも私たち子育てサークルネットワークは、子育てサークルをととても推進しております、なぜかといいますと、同じ曜日と同じメンバー、例えば月に2回、火曜日にここの場所で同じメンバーが集まるというのが子育てサークルになります。支援センターのように、いつだれが来るかわからない、いつあの人に会えるかわからないという状況ではなくて、同じメンバーが同じ曜日に集まるといったところで、例えば人様の子ですけれども、その子の成長も見れたり、そのお母さんの子育ても見られるということで、10人いれば10通りの子育てが見られるということになります。

また、例えばその曜日になりました。その場に行きました。お母さんの様子を見て、何

か具合悪そうだね、大丈夫かなって声をかけてあげることができます。それは例えばふらっと行った公園ではなくて、同じメンバー、いつも同じ顔と顔を合わせるの、その様子がわかる、いつもと違うよね。例えばそのときに子どもが泣きながらサークルに出かけてきた。「どうした？今日」「朝ちよっとこういうことがあって、ちょっと叱り過ぎちゃったのよね」という声を拾うことができるということで、例えばその声を拾うことで、そのお母さんのストレスが発散できたり、あと虐待につながらない、ストップになったり、あと地域で子育てをしますの、今でいうまちづくりセンター、富士市で言うとまちづくりセンターに出かけていきます。皆さんのようなボランティア活動をされている方々と顔を合わせることができるので、地域でこういう活動をしているお母さんたちってこんなにたくさんいるんだって、顔を覚えてもらえます。あその場所のあの人ねってということで、顔と名前を覚えていただくということは、防犯にもつながります。

まちづくりセンター主催の親子講座でも、お母さんたち、子育てをしやすくしたいのであれば、まちづくりセンターなどによく出かけていきましょう。地域の人に顔を覚えてもらいましょう。例えば小学生に上がったときに、「ねえねえ、あなたのお子さん、寄り道してたわよ」という情報が入ってきます。実際にうちの息子がそういうこともありました。近所のお母さんからメールが届きまして、「寄り道してたよ」という情報も入ってきます。地域で子育てをするって、とても大事なことなんですね。

ただ、今のお母さんたちは働いていて忙しいのでとても大変です。だけれども、地域で一つ拠点があるだけでいいのです。例えば小学生に上がると子供会ってありますよね。子供会に入れば、どこどこの地域のだれそれさんという名前がわかります。お子さんの名前もわかります。ですが、幼稚園に入る前の段階の集まる場所って地域にないのです。

おわかりですか。多分町内会長さんは御存じだと思いますけれども、昔はリスさんクラブという幼稚園児が交通の勉強をする場というのが地域であったのですけれども、それも継続が難しくなってきたということで、だんだんなくなっている地域が多いのです。その中で全然幼稚園が違うけれども、こういう子どもがいるんだということを知り得たのですが、今は全くなく、子供会に入るまでも、どこにだれが住んでいるのかわからないということで、できれば子育てサークルという団体を各地域に一つ作っていただけたらなと思います。それも私たち母親主体は基本ですけれども、地域の手の空いた先輩の方々が手伝っていただけたらとても助かるなと思っています。以上です。

<発言者3、発言者4に対する知事のコメント>

発言者3さん誕生日おめでとうございます。誕生日プレゼントですね。誠に、せっかく市民活動しているにもかかわらず、いわばまだ自立してないがために、全く援助が入らないということですね。わかりました。実績を積み重ねてくださったら、恐らく可能だと思います。ただどういうふうになればいいか、ちょっとすぐには支援しますよというふうに言えるかどうかわかりませんので、ちょっと時間くださいませ。PRは引き受けました。ですからこれも2つのことのうち1つ半ぐらいですが、ちゃんとやりますので。

いずれにしても、昨年の暮れからわずか1年にも満たない間に、この「SAVE！岳南レンジャー」、最初は5人だったのが、もう今10人を超えたわけですね。8000人以上の署名が集まったということで、これはお見事です。しかも自分たちで工夫をして、そしてそれぞれ小学生から大学生まで、親御さんがいらしたり、お友達がいらっしやるから、その輪が広がっているということで、かつそれを利用している本人たちが言うのですから、非常に説得力があるというふうに思いますね。ですからこれは何とか岳南鉄道が存続するように一緒に頑張りましょう。

ただ、人数がかつて400万人使われていた、今は70数万人まで落ちましたね。しかしこれは日本全体が車社会になって、かつては公共鉄道だったのが、皆自家用車や車での通勤になったということでもあります。だけど通学についてはやはり要りますからね。それからまた車の運転できない人もいらっしやいますから、それなりの数字のところで落ち着くんじゃないかと思います。

そしてこれを先ほどおっしゃったようにバスであるとか、あるいはJRであるとか、場合によると新幹線の駅だとか、これをどうつなげていくか。交通は交通網、ネットワークになると一気に全体の力が上がりますので、その工夫についても提案したいとおっしゃいましたね。恐らく地元のことを御存じだから、どこどこをどう結べば便利になるのになんかというのがあるのに違いないと思いますので、これは交通関係者にとっても利用者の立場からの御提言ということで、説得力があると思います。

発言者3さんは日本大学国際関係学部の1年生ということで、何とんでも今度は三島駅のすぐそばにすばらしい校舎もできまして、三島駅の風格を上げてますね。そしてあそこは新幹線の駅が停まるところでもあると。こちらの新富士駅も停まるわけです。ただ、あちらは三島駅というのがJR本線と新幹線が連動してますけれども、こちらはチャレンジするのにふさわしいと思います。

ただ、この問題は岳南鉄道だけじゃありません。例えば西の方に行きますと天竜浜名湖鉄道というのがあるんですけども、乗ったことありますか。ないですか。大井川鉄道もありませんか。ですからね、あそこも同じ問題を抱えているんですよ。

ですから天竜浜名湖鉄道、これは2時間ぐらい乗らなくちゃいけません。新所原でしたか、そこから掛川まで、ずっと浜名湖の北の方を回るので、そこも今風前の灯です。この間天竜川で事故が起こったりして、何とか鉄道を中心に立て直そうとしているところで、この悩みは解決すれば、ほかのところの模範にもなると同時に、そういうことをやっているところもあわせてノウハウをとるということで、お仲間と一緒に休みの日なんかにはハイキングがてら、天浜線に出かけていくと。

そのときに行政の方に言うておいてくださると、私は天浜鉄道でレンジャー部隊が行くので、きちっとおもてなしをされるようお願いするというようなことで、今度また向こうから来てくれたときには、乗っていただいて、県下全域でこのネットワークを広げていくといいと思います。

こういうローカルなものは、皆さんに愛されることを通してしか存続できないので、それを今あなたが19歳の初めに始めて、さらにこれは社会勉強ですよ。学校で本を読んでいるよりも余程重要です。そして同時に、高校生、中学生、小学生がいるということですけども、その子たちにとってもものすごくいい。年の違うお姉さん、お兄さんと一緒になる機会って最近は何もないんですね。ですからそういう意味でお兄ちゃん、お姉ちゃんについて知る、逆に自分の弟や妹がいなくても、弟のように、妹のように小さな子に接するということがありますので、いろいろなこれはいい社会的な活動になっているというふうに思います。ですからこれはこれから続けていかれる中で、行政が何とか援助したいというふうに思います。

ただあくまで下から支えるので、中心は自分たちでと。ただお金の苦勞はどこでもありますから、援助なしでもできるぐらいの力をつけてはほしいと思います。同時に市民活動と一緒に入ってくださると、そこにはきっとお金が入るでしょうから、ですからそのあたりのこれからの工夫が、発言者3さん、国際関係、社会関係、地域関係、全部国際関係から見ると小さな関係ですが、それをやってください。期待しています。

それから発言者4さんですね。これは非常に説得力のある、愛媛からようこそお越しくださいました。3人のお子さんを産んでいただきました。これまたありがとうございます。それから平成13年からということですから、もう足かけで言えば12年目ということ

になりますね。丸 11 年間しっかり子育てのママさんの支援サークルを 10 年 1 節といいま  
すけれども、10 年以上やっていただきまして本当にありがとうございます。なかなか続け  
ることは難しいですが、継続は力で、そして数は少ないといっても、何をすべきかがわ  
かっていらっしゃるといのは強いですよ。

今子育てというのが難しいですね。子どもが減っています。今人口どのくらいか。この  
間まで 380 万と言っていました、静岡県。今 373 万人台です。1 年前の 4 月は 377 万 6000  
人だったんです。今 373 万数千人です。それくらいに富士山を下っているという感じだ  
すね。だから我々は 377 万 6000 人というのが、やっぱり「ふじのくに」としてふさわしい。  
特に富士市においては子どもが富士山子で 2～3 人いるのがいい。発言者 4 さんはお子さ  
んが 3 人いらっしゃる。お坊ちゃんかお嬢ちゃんか知らないけど、寄り道をするぐらい、  
少し冒険心にあふれている、結構なことです。

危なくない程度に冒険するというふうな子がいるのは結構なことだと思いますが、ただ  
ちゃんと親の目が行き届いているということがあわせて大事で、そういうときに地域の行  
政の支援はやっているけれども、やっぱりお母さん同士、特に保育園だとか幼稚園に行く  
前のお母さんが子育てで、つまりお父さん、お母さん、あるいはおじいちゃん、おばあ  
ちゃんと一緒に、お母さんのおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活する人が少なくな  
っていますから、ですからなかなか悩みを聞いてもらえないというときに、同じ悩みを聞  
いてもらえる顔の見える関係、こういうものとして子育てママさんのふじママネットワ  
ークがあるんだということで、ですからお母さんのためがあると。

お母さんのためになることは、子どものためになるということで、子どもがお母さん  
にとって安心して育てられるように一緒にサポートしていこうというわけなので、こうい  
う自発的な組織は、むしろ行政がここを後押しした方がいいと。こちらで場所を提供し、  
いつでもどうぞお使いくださいというんだと。先ほど発言者 4 さんがおっしゃったように、  
顔の見えるという関係が初めからできるかどうかかわからんということなので、こうい  
う友達、しかしママさんは小さな子を抱えているため苦勞が多い、そこを一緒にサポートする  
団体なんだということで、この 10 年の実績、これは立派なものでありますので、これを広  
げるように、特に 5 人の先生方にはお願いをすると同時に、富士市においてお願いすると  
同時に、我々としても今は県を挙げて実は子どもの数を増やそうと、少子化問題に取り組  
もうということをしているわけです。

今年の 5 つの重点テーマのうちの 1 つがこれなんです。もうこれ以上子どもが少なく



なっていくと、やがて困るのは、高齢社会で、かつ健康ではあるとはいえ、女性で 75 歳、男性で 70 歳です、健康寿命が。しかし実際の平均寿命はそれより 10 年以上ありますから、そういうときに社会全体でサポートする若い人がだんだん少なくなるという大変に深刻な問題になっていきます。ですからやはり安心して子どもを育てるための工夫というのは、全面的にこれを後押しするということが大事だということです。今 6 団体ですか、これを何とか 10 にまで戻るように目標を掲げてやっていきたいと思います。頑張ってください。どうもありがとうございました。

< 発言者 5 >

皆さん改めましてこんにちは。私は社団法人富士青年会議所理事長を務めております。どうぞよろしく申し上げます。

我々青年会議所は、本年度は 73 名のメンバーで、40 歳までのメンバーですけれども、さまざまな活動をしております。今年度はチャレンジというテーマで、先月ですけれども、間寛平師匠をお呼びしまして、アースマラソンについて、夢を実現するためにはたやすいことではないというのを教えていただきまして、そして 7 月のときに富士祭りで、富士市は「紙のまち」、そしてあと『竹取物語』のかぐや姫の里ということもありまして、段ボールで巨大なかぐや姫を作りまして、そのかぐや姫を市民の皆様に発信をしました。

そして 6 月に青少年の健全育成事業の一環としまして、これは継続事業ですけれども、わんぱく相撲の県大会の主管をしまして、富士市からも全国大会に 5 年生と 6 年生の男の子が出場しまして見事、両国国技館でそちらも行ったのですけれども、その際に富士市では初めて 5 年生が優勝しまして、6 年生がベスト 8、小結になりまして、静岡県も初めて優勝しまして、全国制覇をすることができました。

これちょっと問題があるのですけれども、富士市は中学に相撲部がなく、わんぱく相撲でこれだけいい成績を残しても、結局小学生でやめてしまう。小学生でも相撲の教室があるわけではなく、現在ボランティアで先生が子どもたちをわんぱく相撲前に教えてくださっているという状態です。

ぜひ、これからももしかしたらこのまま子どもたちが相撲を続けていってくれば、富士市からも大勢の大相撲力士が誕生するかと思いますので、ぜひ県の方から市に向けて、課外授業でもいいから、相撲クラブをぜひつくっていただきたいということと、あと今年 55 周年ですけれども、5 年前に青年会議所から中期提言としまして、新東名に、例えば宿泊

施設があったりとか、病院があったりとか、遊ぶところがあったりというようなハイウェイオアシス構想というのを提言させていただきました。

これはちょっと残念ながら実現することはできなかつたのですけれども、市民の方が、富士市の神戸地区の方がその中期提言に対して賛同していただきまして、今そのオアシスの会というのを立ち上げてくださって、再度ハイウェイオアシスの実現に向けて活動しているそうです。

富士市は自分の家から見る富士山が一番きれいだって皆さんが言うとおりに、どこの地区からもすごく富士山がきれいに見えるんです。ぜひこれから富士山がもしかしたら世界文化遺産登録するかもしれないので、その中でもやっぱり富士市が一番富士山がきれいに見えるまちだと私たちは思っておりますし、テレビでやった「ほこ×たて対決」では、ちょっと富士山の写真の選定が多分だめだったのかなと。私の中では絶対山梨よりきれいだと思いますので、それぐらい本当に富士市はきれいに見えますので、ぜひいっぱい富士市に人が来てくださるためにも、ハイウェイオアシスの実現を県から提言していただきたいなというふうに思っております。ありがとうございました。

#### < 発言者 6 >

皆さん、こんにちは。

知事とは、知事室で皆さんから寄せられた医科大誘致について富士市連合会で16万の署名を持って知事室へ行って、知事とお話したのが初めてであります。もう知事は御存じのように、非常に知識もあって、ユーモアのある人なものですから、いきなり度肝を抜かれまして、知事室に行ったら、富士市というのはどこにあるんだって、そこから始まって、当然知事は富士市は26万の東部の特例市という形でわかっているにもかかわらず、そういう話をいたしました。

当然5人の県会議員の先生方は横にいらっしゃいました。町内会連合会の熱い思いをお話させていただいたのですけれども、それはちょっと後回しにして、今富士市の26万人という形の中で、知事がどの程度、東部の拠点はすぐに三島、沼津という言葉が出てきますので、何かどこか忘れていませんかというお答えを私が知事室でさせていただきました。当然知っててそういう話をする知事ですから、そういう面ではこちらも負けていないで、きちっと知事にお返しをさせていただいております。

まず富士市は26万人という形で、ここにいらっしゃる皆さんはほぼ知っているとは思

んですけれども、26万人を各地区26地区の地区割りという形で、富士市の自治会、町内会は現在386名の町内会長、区長の皆さんが、地域の皆さんから出されたいろんな内容について論議を、検討をしております。

どこの町内も386の町内は必ず定例会という形で地区の問題について、先ほど話がありました発言者4さんとか、発言者5さんから出ましたオアシスの署名の問題、これはもう神戸地区の連合会でもきちっと私が聞いております。そういう形で各種団体とは町内会が連携を密にして今進めているわけですけれども、その26地区の中で、ちょうど私が今年で連合会長を任命されてというか、引き受けてからちょうど4年目になります。

冒頭、私が引き受けるについて、いろんな条件を出させていただきました。それが27人の連合会長がその条件をのんでいただいて、実は連合会長を受けさせていただきました。その1つの中で、26地区の代表が、連合会長がいるわけですけれども、大体2カ月に1回ぐらい26地区から27人の連合会長が出ております。27人の連合会長の会合は、大体2カ月に1回、常任理事会という形で理事会を開かせていただいています。

当然行政の窓口はまちづくり課になっているわけですけれども、まず私が提案させていただいた内容は、行政の市役所の本所で常任理事会、会議は一切やりたくない、こういう提案をさせていただきました。先ほど話がありましたように、26地区には昔公民館という形を今まちづくりセンターという形でミニ市役所です。地域の拠点という形で皆さんが活用をしているんじゃないかなと思います。

まず連合会長からいろんな地区の問題が出されてきます。本所で論議をしますと、私が自分の目で現場に行って現地を見て、現地で適切な判断ができない。まず自分の目で情報だけいただく、人から聞いただけで自分が判断するじゃなくて、三現主義という形で自分みずから現地に出向いて現場でその状況を把握して、正しい現実的な判断をさせてもらうという形で、今26地区で常任理事会を開いております。ある地区では、ここの駐車場が狭くて何とかしてもらいたいという話もいっぱいありますけれども、行政の予算というのは限られておりますので、どういう形で順序をしていったらいいかという形が、自分がきちっと判断できるようにさせていただいております。

富士市は非常に広いものですから、なかなか目が届かないわけですけれども、私の与えられた職務というのは正しい判断、公平な判断をきちっとしなければいけないという責務を持っておりますので、まず知事をお願いしたいことは、私の何倍か知事は忙しいわけです。それは十分承知はしております。で、地域からとか、いろんな団体から要望事項もい

っばい出てくるかと思うのですけれども、これは県知事だけじゃなくて、行政にいつも私はお願いしているのですけれども、地域から要望されたものについて、まずは確な形で第一報の返事をいただきたい。一方通行にならないように、ぜひお願いをしたい。

これは私が4年間やっていく中で、ちょうど今年で4年目ですけれども、各行政の課長、部長に対してお願いしてきた。無論議員の先生にもそういうお願いをしています。この中には県の職員の所長さんもいるようですので、私はいつも直に会って、私は直接お話をさせていただいています。知事にお願いしたいことは、まずそちらの一方通行にならないよう、出された内容は幾ら多忙であっても、側近は素晴らしい人がいっぱいいるとは思いますが、現地へ出向いて、自分の目で見て正しい知事の判断をお願いしたい。そうしないと決して静岡県はよくなる、こんなふうに思いますので、まず知事にそういう形をできたらお願いをしたいなと思っております。

そして2年前に富士市の熱い思いをお話しました医科大について、その後一向に話も出てこなくて、フォローもしなかった私の責任もありますけれども、できたら進展状況を聞かせていただきたい。

それから最後にもう一つ知事にお願いしたいことは、知事はいろんな知識もありまして、頭の中が我々の何十倍という考えることが多いことがたくさんあることは十分承知しています。記者会見なり、いろんな形を知事はやるわけですけれども、その知事という職責、これが地域にしてはものすごく大きな職責でありまして、記者会見の席上で知事がちょっと漏らしたことが地域で話題になり、私が報告をしていないという話につながってくる。

具体的に言わせてもらおうと、先ほど来出ています日本製紙の鈴川工場を先月末で操業を廃止して、加工だけ40名で残ってやっております。広大な土地について、知事は非常に知識があるものですから、ぼろっとあそこは火力発電あたりはなんていう話がですね、いかにも決まったように地域から私の方に出されて、報告が連合会長はしてない、こういう話にも実はつながってきます。

ぜひ、いっぱい静岡県のことを考えているし、知事については今までの知事じゃなくて、新しい改革をし、現状のままでは絶対にしないという情報を私もいただいています。そういう面で知事は現地へ出向いて、皆さんの声を聞いて、そして正しい判断をするという考え方も聞いておりますので、それは本当に尊敬する知事でもありますので、ぜひその2つをですね、知事がどう思っているのか、またその辺のお話を聞かせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

<発言者5、発言者6に対する知事のコメント>

まず発言者5さん、青年会議所初めての女性の代表理事ということでおめでとうございます。そしてこれは1年ごとに交代するわけですね。この1年の間に何をするかということですが、間さんと呼んだり、あるいはかぐや姫のプロジェクトをされたり、さまざまことをされて実績を残されておられて、大変たのしい限りです。そんな中でわんぱく相撲、静岡県が優勝したと、これを企画した甲斐がありましたね、おめでとうございます。

それで初めて今、中学校に相撲部が富士市の場合はないと。今大相撲を見ていると、「郷土力士の活躍」というので出てますよね。ですからこれほどこの府県でもやっているわけではなくて、静岡県の場合はきちっと、いわゆるちゃんとした取り組みだけでなく、磋牙司だとかが出てくるわけです。ですから相撲への思いは非常に深いと思います。ですからこのわんぱく相撲で優勝したのをきっかけに、やはり相撲を応援せんといかんと。

今横綱はこれで2人になることになりました。1人は言うまでもなく白鵬と、もう1人が日馬富士ですから、じゃこれを柏戸と大鵬のときには「柏鵬」と言ったと、栃錦と若乃花のときには「栃若」と言った。さあ、白鵬と日馬富士、どう言いますか。「白馬（シロウマ）」と言っちゃったら「白馬（ハクバ）」みたいになっちゃう。だから私は「富士」を持ってきた方がいいと。だから「富士鵬」とかね、両方とも下の方を取るとか、「富士」を使うように皆さんが言った方がいいんじゃないかと。でないと「日馬」の上の方を取られてしまうと「富士」が消えてしまうでしょう。

ですからせっかく来年富士山が世界文化遺産になりますので、できれば上の方に持ってきて、日馬富士、白鵬ですから、下の方の2つを取って「富士鵬」とか、「白富士（ハクフジ）」だと「白富士（シロフジ）」になっちゃって、赤富士と白富士みたいで、だから何とかそういうふうにして、まずこちらから富士を盛り上げるというのも、相撲に対する機運を県全体で盛り上げることにもなるんじゃないかというふうに思います。

ともあれ、これについてはやっぱり郷土出身の力士で引退されている人等もいらっしゃるに違いないので、そういう人たちに何とか課外授業等で、あるいはクラブ活動で、子どもたちが中学でも相撲の力を伸ばせるようにしたいものだと思います。ちょっといろいろ、帰ってから教育長と話をさせてください。

それから新東名のハイウェイ、これのオアシス、この名前がいい。ハイウェイオアシスなんていいじゃないですか。もうはっきり言われましたね。ホテルとか、あるいは病院と

おっしゃいましたか。まずやっぱり富士川楽座がはやってますので、それで新東名の場合には、富士山を見ながら、かつそれをゆっくり楽しめる場所がないんですよ。走りながら見るということしか新東名は考えてなかった、中日本は。そしてでき上がって、やっぱり富士山が見えるところが必要だということになりまして、でき上がってからこの話が出てきた。あるいはもうほぼ開通が決まってから、だからちょっと時既に遅かったんです。しかし、これからも出てきますよ。

そうすると、富士山が見えることは言うまでもありません。もう一方は、やはり眼下に、例えば富士川楽座の場合ですと富士川が見える。そうすると駿河湾が見えるとか、そうすると場所が限られてくるでしょう。そしてこれは中日本株式会社の御決定が必要です。

今の社長さんはあちこち見てられて、それで新東名と東名、両方活用していただくために周遊券作ったらどうかという提案をしましたならば、その場でオーケーということで、周遊券、9月末まであったでしょう。今延ばしているかどうかは知りませんが、それからホテルの件も言いました。場所探してますよ。場所といたって、こちらが提案して見ていただければいいのですから。

一つには新東名の新富士インターのところ、あそこのところはいろいろと空き地がございましょう。北側のところには国の施設がございまして。南側のところは今開発中ですね。ただ高压電線が走っているでしょう。あれが邪魔するということがあります。それから言うまでもなく富士川楽座から見たときに見えるのが岩本山ですね。岩本山のところは、あれ下り線の土砂を一時期保管していたところがあるんです。つまり引込線があったんですよ。だから下り線からは入りやすいと、岩本山は。そうすると岩本山からは富士山が茶畑の向こうに見える。そして眼下には駿河湾あるいは富士川が見えると。

それからもう一つ上り線、これは神戸、神の入り口、こんないい名前がありますか。そこは上り線で下りれば、今度は富士山が見えて、眼下には駿河湾が見えると、これを社長に言ってあります。だからこちらが決定するという力がございませぬので、やはりそれを管理されている国交省、なかんずく中日本高速道路株式会社がこれをお決めにならなければいけないということで、このハイウェイオアシス構想は今進んでおります。

それから、それだけでなくで内陸フロンティアということで、ここに非常に美しい農芸都市とでも言うガーデンシティのようなきれいな景観をつくらうと。ですから変な看板を出さないように、本当にきれいなところ。もう御殿場から静岡県に入ったら、浜松、引佐三ヶ日から向こうの愛知県に出るまでは、もう目にも鮮やかな桃源郷に入ったような、そ

ういう景色にしてみせたいということで、道路それ自体もきれいだし、非常にレベルの高い道路です。いろんな賞を取っています。田中賞とか、土木学会賞とか、ですから道路の芸術なんですよ。その周りについても、これは景色がきれいなので、全体が庭です、借景です。ですからこれを汚さないように、開発する場合でも乱開発をしないようにしたいというふうに思っております。

農産物がとれるようなところでございますから、しかも芸術品としての農産物ですから農芸品、だから農芸都市というような、そういうきれいな景観ができるように、このハイウェイオアシス構想ですね、ちゃんと実現していきたいというふうに思っております。いい御提言をいただきましてありがとうございます。これも皆様方も応援してください。

それから発言者6さん、いつもながら厳しい御意見ありがとうございます。もちろん覚えてますよ。台車で持ってきて忘れない。忘れるもんですか。大体東部に病院を誘致するというのは、もうこれが一番大事なこちらにおける課題だと。たくさんありますよ。だけど西部には浜松医科大学がございまして。中部にはそれなりに県立総合病院もあると。東部にはないと。それはどこか。だから富士のどこかと聞いたのを、富士がどこかとお聞きに間違えられたと思いますが、とにかくこの場所をどこにするかというのは極めて大事なことです。

学校でしょう。学校というのはですね、学生さんが来るんです。そして先生もいらっしゃいますが、若い先生もいらっしゃいます。看護師さんもいらっしゃいます。看護師になるような方もいらっしゃいますでしょう。ですからそこはやっぱりそれなりに楽しいところでないと。

ちなみに東京で一時期東京の大学を郊外に移すということにしましたね。八王子の山の中に移った。例えば有名な中央大学というのがあります。中央大学は八王子の山の中に移したんですよ。法学部という、中央大学は法学部が有名なんです、その法学部を移したら、青森だとか、あちらこちらの田舎から出てきて、お父さんが、あるいは親戚が中央大学の法学部に行つたと。それ言ったら、田舎から出てきて、東京だと思つたら田舎だったという。それでずっと人気落ちたんですよ。

ですからやっぱりそこで学ぶ子どもたちの、あるいは若い先生方のためのことも考えなくちゃいけないから、誘致してくれ、じゃどこかということで、私はもう巡っていますよ。それはもう10か所とまではいきませんが、すべてについて相手もあります。本県の命を預けるわけでしょう。ですからいわゆるどういう大学でもいいというわけにいかない

でしょう。やっぱり名のある大学、聞いて安心できる大学でないといけないということでございまして、それでここまで出かかっていると言えないことがあるんですよ。なぜかという、まだ決まってないのに知事その名前を言ったということになるとえらいことになります。ですから、本決まりになって、もう契約ができるということになって初めて言えるということです。

しかしですね、医学をどれぐらい重視しているかというのは、例えば県立大学って2つありますでしょう。1つは西の方の文化芸術大学です。そして県立大学の方は静岡市にございますが、そこは今まで県庁の天下りの方が理事長をやっていたんですよ。今はだれですか、日本の医学界、いや世界の医学界の最高権威ですよ。その人がその理事長に座っているんですよ。この間はコッホ賞というのを取られた。結核菌とか、ああいうものを見つけたコッホというドイツの学者がいますけれども、その名前をとった医学における、ドイツにおける最高の権威をとった人です。そういう人がいるんです。ですから、そういうことを通して人々の目を本県に引き付ける、そうした中で西中東のバランスをとってどこに。

大学は10ヘクタール要るんですよ。10ヘクタールというのは、高校2つ分だと思ってください。それぐらいの敷地が要るんです。しかもそう駅から遠いというわけにもいかないですよ。そしてそこに病院があわせて併設できないといけません。いろいろな条件をクリアして、よし、それで県はどれだけ補助できるんですかと。学校の医学の先生はどこから持ってくるんですか。京大ですか、名古屋ですか、大阪ですか、あるいは慶応ですか、東大ですか、あるいは順天堂ですか、皆いわば学閥みたいなものがありますでしょう。

で、静岡の県立がんセンターの場合は、あれはすべてのところからとってきていますね。初めから学閥ではとらないということをやっている。しかし実際は慶応閥の大学、あるいは東大閥の、あるいは京大閥の、そうしたこともあわせて考慮しないと、しかもものすごいお金がかかります、医学部が実際のお医者様をつくり上げるまで。ですから進んでないと言われると、もう本当に辛いところがあります。常にここまで来て、決まるまでは県民の方には言えないという辛いところがあるということ。

それから吉原の鈴川の工場ですね、これは1月に行きました。それでその工場をどうするかについては、本社も決めてないんですよ、その時点で。しかし、その所長さんが僕を案内してくださった。そして現場を見れば、そのラインが働いてないじゃないですか。それで尋ねましたよ、どうするか。本社は決めてないとはいえ、現場で決めることを抜きにして本社も決められないですね。だから、もう買い手がつけば売るとおっ



しゃった。これももう石巻にやがて移すと。ただ、ある一定の機能は残すというふうに言われていました。しかしもう紙を作らなくなれば、そこにいろいろな全世界のあちこちからパルプが送られてきています。それが種類ごとに積み重ねられているんですよ、内側のところに。お堀の内側のところですね。そういうものも要らなくなりますから、これどうするのかと考えますね。どうするんですかと。いや、全然考えてないと。しかし私は火力発電所と言った覚えはちょっとないんですよ。

ただ最近、別の形で御前崎というところに火力発電所の可能性が、火力発電所じゃなくて石炭を持ってくる可能性であります。火力発電所というのは石炭あるいは石油です。石炭が一番安いんですよ。じゃその石炭をどこから持ってくるかということを考えないといけない。それはもう御前崎に持ってくるのが近い。送電線があそこにありますからね。そういうことを前提にして、いわゆる関係者とお話をしながら、その話は最近した覚えがあります。

もし吉原について言ったとすれば、言うまでもなく東田子の浦駅、その向こう原町でしょう。原町の駅に2キロほどの貨物駅をつくらと言っている。東田子の浦駅に行った。あそこに職員がいて、そこで貨物線が待っているんですよ、普通列車の通過待ちを。沼津駅では100本ぐらいのうち、貨物の揚げ出しするのはわずか5本です。あとは通過待ちなんですね。ですから通過待ちを東田子の浦でできるのかと。じゃ吉原はどうかと。そして東田子の浦はなるほど狭いですよ。だけど吉原は、少なくとも1キロは場所がとれる。貨物が二十数台ございましょう。そのうち一体貨物の出し入れするのは何台ですか。コンテナわずか4～5台ぐらいですよ。だから全部26両要らないんです。あってもそのうち半分ぐらいのところを出し入れすればできるだろうということは、もう見ればわかります。なぜかということ、岳南鉄道も入っているし、もともと貨物船が入っていましたから、幾つもの線がありますから、「そういう可能性はありますね」と言ったら、「うーんなるほどね」ということになって、そういう話が伝わったのだと思いますが、何も決まっていません。だってまだ売れてもいないし。

ただ、ある施設は別の形で必ず生かすことができると。ですからだめになった、はい終わりではない。これをどう生かすかをあわせて考えないといけないと。それはその場で、そこにいる人と一緒に話をすると、それは意見を交換できますから。そして途中の真ん中に道があるでしょう。あの道をどうするかというような話も、その現場へ行くことができやすいですよ。あれを潰すんですかとかいう話になりますから。

ですから、こうしたことは決定として聞かれたら私は記者会見でも、今はそうですね、長い場合には1時間25分ぐらい、通常1時間です。ですからもう聞かれたことは全部しゃべる。そういうふうにしていますから、だから本当に申しわけなく思いますけれども発言者6さんに御報告しないまま言ったようなこともあったかもしれない。それは県庁の役人も、相談もしないのに知事が勝手に言っていると。しかし実際は思いつきで言ったものは一つもありません。すべて全部調査した上で出しているんですよ。だから一部の人、関係者にはこういう可能性はどうかと調べているんです。

例えば内陸フロンティアなんていうのは、県議の先生ですら、この5月に急に言い出したと思われている。しかし、これは去年の暮れから、今の副知事とはもう練って練ってですね、東日本大震災のようなことがこっちで起こるということを想定した場合に、その予防措置をどうするかと。彼らは内陸に移ろうとしていると。それなら先にどれだけとれるかということで、1月からずっとやってきたことなんです。だからもう3月には決まっていた。ところが副知事が決まらなくて、ちょっとその話が途絶えた結果、一見突然言い出したようですけども、実際はずっと考えていました。

いつも考えている。どうしたらいいか。西はそれこそ湖西市から、北は水窪なり、井川なり、石廊崎から何から、ずっと全部を見ながら考えています。で考えながら、しかし370万の方たちに一つ一つ全部言うということはなかなかできませんで、それで一つ一つ関係部局と関係者にだけ相談しながら、だから彼らは、この時点で知事が言ったかというふうになると思いますけれども、ただ発言者6さんはこの26地区386人もの人たちのトップにいらっしゃいますので、そのお声を十分にこれまで尊重しなかったという面があったとすれば、この場を借りておわびをしておきますが、しかし医学部の件についてはやっているということを申し上げる以外にない。

それから火力発電は、田子の浦で火力発電というのは、今のところはちょっと。ただそれよりも田子の浦港を重点港湾にするという運動をしました。これは残念ながらちょっと外れましたけれども、駿河湾港として清水港と田子の浦と、そして御前崎を一体的に運営していこうということで、田子の浦港はこれから発展の可能性があると見ております。そうしたときに仮に土地が空くとなれば、これを人々の生活、仕事、これをつくるように考えないといけないということで、ぜひ発言者6さんの方からもいろいろ御提言をいただきましてやっていきたいと。また今日こちらに5人のリーダーの方もいらっしゃっていますので、そういう人たちにおっしゃっていただければ、そう時を置かずに私の方に伝わるは

ずでございます。ありがとうございました。

<傍聴者1>

それでは質問いたします。私は端的に、新新富士川橋の最近の架設事業の進捗状況とい  
いますか、それと特に旧富士川町を合併しておりますので、最近はこの事業に対する皆さ  
んの関心事だと私は思っております。その点につきましてこの新新富士川橋、市と県が余  
程協調しないと完成は見られないというふうを考えております。よろしく御回答、御説明  
を願いたいと思います。どうぞお願いします。失礼しました。

<傍聴者1に対する知事のコメント>

新新富士川橋、いろいろ御心配かけておりますが、地権者の方との会話ができて、  
御理解をいただきまして、あそこにミカン畑もあるし、あそこをきれいに、何という公園  
だったっけ、あの有名な、雁、もちろんね。それから有名な歌人だか俳句を詠まれる方が  
来たその手紙なんかもあるんですよ、有名なお宅がございます。そこがまたいい。すばら  
しい。本当に大事にされてこられて、そういうお気持ちをお聞きしまして、今進捗状況は、  
要するにかつて全然進まなかったでしょう。今は去年から進んでいますね。去年だったか  
な、ですからもうかれこれ1年近くなるんじゃないかと思うんですけども、そこに架け  
る方向で、従来の予定といいますか、道路の方向で進んでいると。これいつ広報するのか  
しら。

<富士土木事務所長>

どうも御意見ありがとうございます。状況でございますけれども、先ほど知事が説明し  
ましたように、地元との調整がかなり進みまして、今測量の方を主に、あと建物の調査等  
も進めております。それで今後の地元の方たちとの交渉の状況ですけれども、県といたし  
ましては、来年度ぐらいから用地交渉とか、建物の補償とか、そういったものにかかって  
いきたいと思っておりますので、また地元の方々の御協力が必要ですので、ぜひよろしく  
お願いいたします。

<傍聴者2>

静岡空港についてお伺いいたします。いろいろ赤字が続いているように報道されてます

けれども、我々は経営形態がわからないものですから、どこをどう補えばこの黒字が補えるか、そしてその黒字化されるのはどれぐらいの時期か、こういう見通しですね。

あわせて、F D Aに無利子で融資されているということを聞きましたけれども、民間企業に無利子で融資をするということが、ほかの一般の企業にもそういうことをされているかどうか。この前J A Lが上場されたときに、会長さんのお話で、利子を付けて公的資金に対してお返ししたと、こういう話もテレビで見たんですけども、その辺はどうなっているのか、お伺いしたいと思います。

#### <傍聴者3>

本当は主人の意見なんですけれども、知事さんの方からこれからは田子の浦開発に向けて、それが進んでいくだろうという夢があるんですけれども、その中に富士市は私たちよそから来た人を案内するところがないんですね、なかなか。富士宮の朝霧の方とか、よく行きますけれども、清水の水族館のところも参ります。

富士市は田子の浦を抱えていて、子供が遊ぶ海水浴場を前から、へドロの時代から私たちはそこで船を浮かべて富士市を楽しんだものなんですけれども、子供の海水浴場、塩水は昔から体にいいと言われて、遠くの方にみんな海水浴に参ります。蒲原にも少しあると聞きましたけれども、富士市には急深、へドロもあったということで、なかなか遊ぶところがないわけですね。

富士市に人を呼べる、若者がやはり県外に出ていってしまう。河口湖、富士五湖の方に遊びにまいますね。また潤井川も利用すると今カヌーがはやっています、本栖湖、それから河口の方に皆さん出かけて、これは年齢を問わず、若い者から、それから70代に至るまで、カヌーは今人気が出ているようです。お金もかからないということで人気があるようなんですけれども、富士市ももっと遊ぶ場所、若者が集う場所というものをちょっとこれから、何も私も案がないんですが、集まれる場所というものをちょっと田子の浦発展のときに入れていただいたらありがたいなど。これはいろいろ詳しいことは主人が話したいと思いますけれども、今体調を壊していますので、代わって意を尽くせませんが、私がお願いしたいと思います。失礼しました。

#### <傍聴者4>

発言者3さん、今日は誕生日おめでとうございます。直接知事さんに関わったことじゃ

ないですけど、岳南のレンジャーの隊長をやってらして、おばさんも署名をたくさん、おたくのお母さんたちともらって歩きました。せっかく今知事さんが大井川鉄道、そして天竜の方の鉄道に乗ったらいかがですかとって言われましたよね。これから井川の方は紅葉できれいになります。これ知事さんをお願いして、今年の秋に皆さんと行ってもいいですけど、そういう鉄道に乗って、やっぱり岳南鉄道ばかりじゃなくて、あちらとも連携して、いいコミュニケーションをつくって、岳鉄にも、いろいろお水もきれいだし、岳鉄のあの通りね、きれいなお水も出るし、そういうPRをしながら、このレンジャーで頑張っていたきたいと思っております。発言者3さん、頑張ってください。よろしく願いします。

<傍聴者2、傍聴者3、傍聴者4に対する知事のコメント>

まず空港についての御質問、ありがとうございました。空港は毎年、いわゆる単体としては赤字ですね。しかし空港ってなかなか黒字、赤字というのは難しいところがあります。例えば橋を造ったと。その橋の維持管理ってお金がかかりますけど、その橋は人が動くので利便性がある、経済効果もあります。同じように、空港をお使いになることによって海外、あるいは県外から人がお越しになって、お泊りになったり仕事をされると。それが例えば平成22年度で二百数十億円の経済効果があるということを静岡の経済研究所が試算されています。ですから、そういう面の波及効果というものをお考えいただきたいと思えます。

ただおっしゃるとおり、毎年向こうからお越しくくださるインバウンド、こちらから出かけていくアウトバウンド、これを運航してくださっているいろいろな空港会社がございますから、そこに日本の全体の地方空港と同じような支援策を講じているんですよ。それがやっぱり数億のお金になっています。これはやっぱり具合が悪いと。ほとんどのところは赤字ですけども、例えば羽田ですと、もうそこに飛ばしてくれという世界中の飛行機会社があつて、ですから発着枠というのですが、これをください、くださいということで競争になっているんですね。静岡空港はまだそこまでいっていません。飛んでくださいという形になっているわけです。

そこで、それにもかかわらず外国の人たちが乗り降りをする、その乗り降り数は全国で8位です。大したものなんです。それから全国で8位と言いましたけれども、そこには成田とか羽田とか、あるいは中部国際空港とか関空とか福岡のような、ああいういわゆる

地方空港ではなくて国が管理しているのがあります。地方空港では1位なんですね。だけど、まだ不便です。それははっきりしています。だからそういうインバウンド、アウトバウンドにお金を差し上げるということではなくて、使いたくなるようにするにはどうしたらいいか。

例えば新富士駅から静岡駅まで10分ほどでしたっけ。10分ぐらいですよ。掛川までまた10分ぐらいでしょう。その間にあるわけですから、仮に富士山空港の下に富士山空港駅ができたなら、これはもうものすごい便利ですよ。仮に成田に降り立ったと、偉い人が。そうすると車列を連ねて、ずっと東京の中に入らんといかん。そのときにどんなにスピード出しても100キロですよ。かつ街中に入ると信号がございましょう。その都度交差点なんかでいわゆる警護の人たちというのは何千人と立つんです。しかし、新幹線に乗りますと、皇室ですら、そこでお見送りされた後、ずっと200キロで東京駅まで行くということで、警護も最低で済むんですね。ですからあそこに駅ができればVIP空港になりますよ。確実になります。

そしてこちらで運動をいたしまして、国の最高の交通政策審議会という審議会がありました。そこでリニア新幹線のルートを決めることをお決めになったときに、リニア新幹線ができたときに、既存の新幹線のダイヤが変わると。ダイヤが変わるときに既存の新幹線をどう活用したらいいか。どう活用したらいいかという案を出してくれと言われて、富士山空港の下に駅を造ればいいと申し上げましたら、それが入ったんです。だからもう報告書に入っているんですよ。だからリニアができるときには、あそこに駅ができるという、これはもうこちらにいらっしゃる先生方も、皆さん言われてこられたんですが、そういうことも可能になってきました。

さて、もう一つ、FDAに対して特段の援助をしている。FDAというのは言うまでもなく本社は静岡でしょう。そして羽田にも行きません。あるいは成田にも行ってない。つまり地方空港を結んでいます。そういう地方を元気にするための空港として自分たちは頑張りたいと言った。ところが札幌、あるいは小松空港、あるいは熊本空港、福岡空港、鹿児島空港へ飛ばした。ところが人が乗ってくださらないということで、赤字、赤字、赤字で、そして小牧空港といいますか名古屋空港にもう一つの拠点を設けて、そして拠点を設けた途端に、恐らく相当儲かっています。

それでまずそのFDA本体が黒字になって、ちゃんといわば離陸して安定飛行に行くまでは、やはり地方の持っている飛行機会社として、それなりに育てないといけないと。初

期投資が要るんです。で、こうしたことは、ただ民間に対して税金を必要以上に投入しているということになると御指弾を受けますので、これは御指弾を受けないように、今明らかにこの3年たって黒字です。しかもその証拠に、もう今7台目でしょう、虹色のね。飛行機の色が全部違う。7台目、8台目ですよ。あんなに高い飛行機を買うことができるのはどうしてでしょうか。はい。だからだんだんとうまくいっているんじゃないかというふうに見ております。ただ、まだ厳しいようですね。だけど無利子で融資しているというのは、どの程度か、もうちょっと調べさせてください。それでちゃんとお返事いたします。

それから田子の浦、今あそこ公園にしてまして、かつてフェリーが降りていたところにこちらの意思でつくった、「天地の分かれ時ゆ神さびて高く貴き駿河なる富士の高嶺は」というなかなかいい歌ですね。しかも万葉仮名で打ってあるんですよ、あれ。「天の原振りさけ見れば渡る日の影も隠らひ照る月の光も見えず白雲もい行きはばかり時じくぞ雪は降りける 語り継ぎ言い継ぎ行かむ富士の高嶺は」「田子の浦うち出してみれば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける」これを万葉仮名で書いてある。それを全部移しました。そしてミニ富士 37.76 メートルのこれを造って、そして今海岸、ずっと向こうの方まで整備してございます。

そしてその一面に伊豆半島もすぐ向こうにございますので、何かのときにヘリポートがあった方がいいということで、それこそその大事な会議も今日の午後4時からやろうということにもなっているんですよ。そして、しかし大事なことは、人様がお越しになって、特に子どもたちが海辺ですから、美しい景観があるところですから、そこで夏は楽しめるというふうにした方がいいと。もちろん季節によってシラスのおいしいどんぶりもいただけるということで、あそこシラスの街道にもなっておりますから、そういう遊んで、そしてお食事もできるということが望ましい。

それから川が余り急流じゃありませんので、おっしゃっているようにカヌーというのは、なるほど言われてみればそうだとすることがありますので、そういう海辺の楽しみを子どもたちも含めて、老若男女楽しめるようにするのがいいというふうに思いますね。この提言は今まだ完成していませんから、あそこの公園が。市とも協力して、本当に日本の古来から、富士山といえば田子の浦と、田子の浦に行ったら期待が裏切られなかったというふうにしてみたいというふうに思っております。ここは何度も来ております、田子の浦には。あそこの浜に移すということについても、一緒に考えたことございますので、大変いい御提言をいただきましてありがとうございます。

それから傍聴者4さん、励ましていただいて、19歳の誕生日を。それで一緒に行ってくださいということですから、きっと何か、ちゃんと親孝行のかわりに、おばさんという感じじゃないですけどね、もっと非常に姉御という感じですけども、そういう感じで天浜線。「孫ぐらいです」なるほど。

僕はおばあちゃんと孫との関係が、単に自分の本当の孫だけでなく、おばあちゃん世代と、それから孫の世代が交流するというのが、ママさんにとっては本当に安心だと。お子様を育てた経験のある方がいろいろアドバイスをするという文化をつくり上げると、かぐや姫でもそうでしょう。おじいさんが探しに行つて、おばあちゃんが育てたに違いないです、あれは。そうでしょう。若いお母さんじゃないんですよ。おばあちゃんが育ててます。それから桃太郎もそうでしょう。おじいさんが山に芝刈りに行つて、おばあさんが川に洗濯に行つて見つけてきて、おばあさんが育てているんです。つまり自分の子どもじゃないということですよ。

おばあちゃんが育てると、ああいう立派な桃太郎になるというわけで、そういうわけでそういうふうにお母さん経験者と、そういうお孫さんの世代の小さな子供たちが接触するというそういうことで、あなた方の後輩がたくさんいると、高校生、中学生、小学生、あのね、ぜひ傍聴者4さんと御一緒に天浜線がいいと思いますよ。もちろん大井川鉄道もいいと思いますけれども、連携がとれるように、ちなみに天浜線は、薩摩と熊本の間には薩南鉄道というのがあるんですよ、そこと兄弟関係を結んでいる。だからこちらに目を向けなくて、九州に目を向けたんです。だけど岳南の方に目を向けてもらった方が交通費が安いし、向こうからも来てこられると思うので、ちょっとそれを念頭に置いてやってみてください。どうも皆さんありがとうございました。

#### <知事まとめ>

さすがに今日は富士市のリーダーの方たち、女性軍の方が多かったんですけども、ともかく実業家の団体の長、会社の長さん、それから地域のリーダー、それから若き女性たち、バランスが非常によくとれていたというふうに思いました。今富士市が新しい時代を切り開かなくてはならないなど。ただし昔持っていた地場産業としての紙の文化、これもきっちりと残さなくちゃいけない。一方で新東名、これは内陸ですね、それから田子の浦、こういうところにそれぞれ新しい可能性が今開かれつつあります。

これを支えるのは行政ではなくて、皆これはそこに生活している人々です。その人々の



ために県議の先生がいらっしゃり、そしてまた県庁があり市があるということですので、そういう県民の声を今このような形でしっかり言っていただいたということが、私は富士市の将来をいい意味で明るくしているというふうに思いました。

まだ御心配の向きもあるかと存じますけれども、これをきっかけに交流をさらに深めまして、しっかりと皆様方の声的那个人に届いて、それが仕事になるようにしてまいりたいというふうに思います。

どうも今日は長時間、午前中付き合ってくださいましてありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。皆様方もありがとうございました。